

東松山市「地域公共交通計画」策定調査業務
交通事業者ヒアリング

【調査結果報告】

2022年12月

調査の概要

(1)調査の目的

「東松山市地域公共交通計画」の策定に向けた公共交通の現状等の把握を目的として、本市の地域公共交通を担う交通事業者（鉄道、路線バス、タクシー）を対象にヒアリング調査を実施します。

(2)調査概要

■実施対象

以下の7社を対象とします。

<鉄道事業者>

- ・東武鉄道株式会社

<路線バス事業者>

- ・国際十王交通株式会社
- ・東武バスウエスト株式会社
- ・川越観光自動車株式会社

<タクシー事業者>

- ・有限会社東松山交通
- ・イグチ交通株式会社
- ・観光タクシー有限会社

■調査方法

事前にヒアリング調査票を各事業者に送付し、調査内容を予め把握していただいた上で、地域支援課担当者による対面での聞き取り調査を実施しました。

■調査項目

質問カテゴリー	質問の目的・意図	地域公共交通計画での活用	質問内容	バス事業者	鉄道事業者	タクシー事業者	特記事項
現況把握	素案内の「公共交通の現況整理」記載内容の深掘、不明点の理解、事業者のみが所有する情報の把握等を目的として実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の整理における素案への記載内容の整合確認 市の課題、公共交通が抱える課題の整合確認 新規内容の把握 必要に応じ課題整理、指標の設定、事業案の検討に活用 	近年の利用者数の傾向	○	○	○	
			通勤・通学利用者の状況 (定期利用者半数、コロナの影響等)	○	○	—	
			運賃支払い方法	○	○	○	
			運行ルート上の問題点	○	ルートの大幅な変更・廃止の可能性が低い輸送資源のため当質問は行わない	—	
			運行上の問題点・課題点	—	○	○	
			採算性・収益	○	○	○	市の補助で運行していないものについては計画内で記載する予定は無し(参考程度に聞ける範囲でうかがう)
			ドライバーからの苦情・ニーズ	○	鉄道運転手のニーズは地域公共交通計画には直接的に反映しがたいため、当質問は行わない	○	
			他交通手段との接続	「地域公共交通計画」策定後に市が取り組むべき公共交通の課題解決の実施、運行内容の見直し等の際の参考にすることを目的として実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 施策(事業)案、指標の検討、素案記載内容の整合確認、 新規内容の把握 必要に応じ課題整理、指標の設定、事業案の検討に活用 	鉄道との接続に関する取組	○
鉄道以外の公共交通との接続に関する取組	—	○	接続よりも乗り継ぎについて問う				
事故・災害時等における他の公共交通との連携	—	○	大量輸送資源のため鉄道事業者のみに行う	—			
今後の停留所等の新設・廃止	○	—	—	—			
今後のダイヤ改正予定	—	○	—	—			
事業者としての取組	○	○	○				
他企業との連携	○	○	○	○			
行政に期待する点	○	○	○	○			
利用者からの要望	市民アンケートからは把握できない事業者が把握する市民の声の把握を目的として実施する。		利用者からの要望等	○	○	○	
環境整備	国土交通省が定める「地域公共交通計画」策定の手引きで示された、計画内に記載することが推奨される内容の把握を目的として実施する。		IT技術の導入状況・予定	○	○	○	
			バリアフリーの取組	○	○	○	
			感染症対策	○	○	○	
			地域の輸送資源の活用 (地域公共交通計画策定に向け)	○	鉄道事業者は関与の可能性が低いと想定し当質問は行わない	○	地域公共交通計画記載事項として、可能な限り事業者の意見、事業者の持つ情報を把握する必要あり
デマンドタクシーについて ※該当事業者のみ	事業者が把握する運行実態、課題等の把握を目的として実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 現況整理の整合確認 新規内容の把握 必要に応じ課題整理、指標の設定、事業案の検討に活用 	近年の利用者数の傾向	/	/	○	
			利用者の利用内容			○	
			運行上の課題			○	
			利用者からの意見			○	
自由意見	適宜計画全般に重要事項を反映		自由意見	○	○	○	

(3)調査結果一覧(ヒアリングシート)

※各事業者からの具体的な回答内容は経営状況等の情報が含まれるため割愛

(4)調査結果とりまとめ

①鉄道事業者

【近年の利用者の状況】

2020年は減少したものの、翌年（2021年）は回復傾向にある。通学利用者はコロナ禍前の水準に戻りつつあるが、通勤利用者はそこまでは回復していない。

【今後の運行計画】

広域的な鉄道ネットワークが形成される「相鉄・新横浜線」及び「東急・新横浜線」の2023年3月の開業を受け、東武東上線からの直通運転を行うことを公表している。運行計画は、今後発表予定。

【利用促進】

利用促進に向けて、エレベーター、エスカレーターの導入推進、バリアフリー対応のトイレ、発車案内表示器、デジタルサイネージの導入等、利用しやすい設備、情報提供の推進を念頭に対応を行っている

利用者からの要望として、「券売機での切符購入方法がわからない」、「通路のバリアフリー化（無段差）を促進して欲しい」といった利便性の向上を望む声が多い。

【その他】

○ICカードの導入の他、TJライナー*のネット発売、スマートフォンで確認できる運行情報の提供等、インターネットを活用したサービスも展開している。

※座席指定券を購入してゆったり座れる人と環境にやさしい次世代型通勤・通学車両

○利用者への声掛けの推進や、電車内バリアフリー化としてドア誘導音、ドア開口部の床色の識別色化、ドア開閉予告等の設置等の実施のほか、駅では多機能トイレの設置を進めている。

②バス事業者

【近年の利用者の状況】

コロナ禍で一時利用者が減少したが、回復傾向にある。全体としては、リモートワークの定着に起因する利用者の減少がある。

【具体的な現行ルートの問題点】

- ・東松山駅周辺の工事の状況が危険
- ・柏崎停留所が横断歩道から近く危険
- ・五領停留所が交差点から近く危険
- ・東松山図書館前（熊谷方面から東松山駅入口信号を右折するところが混雑）
- ・東松山駅東口前（階段下すぐ横断歩道あり。横断待ち車両で渋滞。バス出られない）
- ・東松山駅東口前の送迎車両の違法駐車
- ・パークタウン五領行の六軒町付近で、道路の劣化により振動が大きい。

【運行上の問題点】

定時運行に課題があり、所要時間の見直し等を適宜行っている。

【鉄道との連携】

概ね東武東上線のダイヤに合わせて運行している。

【事業者から行政に期待する利用促進】

- ・バスに親しみを感じるきっかけづくりの促進
- ・収益の無い路線への補助金を希望
- ・燃料高騰やコロナ禍における利用者減のための支援を希望

③タクシー事業者

【近年の利用者の状況】

コロナ禍で一時利用者が減少したが、回復傾向にある。また、夜間の利用者がコロナ禍前に比べ減少している。

【具体的な市内における渋滞発生箇所】

- ・東松山図書館前（熊谷方面から東松山駅入口信号を右折するところが混雑）
- ・ビバモール付近の交差点
- ・ヤオコーシルピア店から市役所方面へ向かう道
- ・東松山駅東口前
- ・南中学校前交差点
- ・ビバモールから東松山駅に向かう途中
- ・滝沢石油前交差点

【運行上の問題点】

ドライバー不足が課題（コロナの影響ではない。ドライバーの健康上の都合等による）になっている。

【他公共交通との接続】

概ね鉄道への乗り継ぎは実施している

【事業者から行政に期待する利用促進】

- ・デマンドタクシーの更なる周知、PR を希望
- ・駅前広場使用料の免除
- ・駅ロータリーにライブカメラの設置を希望
- ・稼働台数など実情に応じた補助金の支援を希望

【デマンドタクシー運行における主な課題、要望】

- ・運行時間を延長の検討
- ・日祝日も運行の検討
- ・乗降ポイントの設定

【デマンドタクシー運行における市への要望】

- ・循環バスへの乗り継ぎ割引が活用されていない
- ・近隣自治体の大型医療施設を乗降ポイントとして設定してはどうか
- ・市街地から遠方の市民は利用料金が高額になるため、そういった市民も利用しやすい仕組みが必要

(5)総括

◆ 公共交通利用者の状況

すべての事業者において、コロナ禍の影響は大きく、特に2020年は一時的に大幅な利用者減少があり影響をもたらしたが、共通しその後の利用者数は回復傾向にある。一方、リモートでの勤務、授業の定着の影響もあり、コロナ禍前の利用者水準には至っていない状況にある。

◆ 利用促進

全事業者において、ICカードの導入、スマートフォン決済の導入、インターネットでの情報提供等ITによる何らかのサービスの提供が見られるほか、バスとタクシーにおいては、バリアフリー車両、ユニバーサルデザイン車両等、福祉に配慮した車両の積極的な導入等も見られた。

行政に期待する利用促進としては、公共交通の周知促進のほか、補助金の希望、情報提供等様々な内容が寄せられている。

◆ 危険箇所・渋滞発生箇所等

バス事業者3社、タクシー事業者3社で共通して挙げる箇所が複数見られた。特に両事業者共通し、東松山駅東口を挙げており、駅周辺の横断歩行者、送迎車両、また工事による影響等の意見が挙がり、スムーズな交通を確保するうえでの課題となっている状況にある。また、タクシー事業者からは、ビバモール付近、南中学校前交差点が2社から渋滞発生箇所として挙げられている。

◆ デマンドタクシーの運行状況

事業者3社によると、概ね一定の利用者数を確保し運行がなされていることが分かった。一方、認知度の低さや、日曜の利用を望む声が多い等、事業者視点からの課題も挙げられている。今後より利便性の高い運行内容を目指す際、利用者のニーズに沿った見直しが重要と言える。

◆ 地域公共交通計画への活用

コロナ禍以降、公共交通の利用機会、頻度に変化があることが当調査からうかがうことができた。このため、持続可能な公共交通を目指すにあたり、事業者・利用者・行政3者のバランスに配慮した公共交通を目指すことが必要と言える。

公共交通利用促進策の検討、渋滞箇所・危険箇所等の解消、デマンドタクシーの現況把握・課題の整理等、地域公共交通計画の策定に活用することが有効と言える。